

## **速報** 平成28年度全国学力・学習状況調査結果(下野市の概要)

平成28年11月1日  
下野市教育委員会

平成28年度の全国学力・学習状況調査の下野市の結果(国語、算数・数学)は、全国の平均正答率と比べ、小学校は国語以外の教科はほとんどの領域で、中学校は全教科のすべての領域で、全国平均正答率を上回る結果となりました。

平成28年4月19日(火)実施

### 【全国学力調査】

- A問題(主として「知識」に関する問題)
- B問題(主として「活用」に関する問題)

- ◇国語の領域(小・中) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」  
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
- ◇算数の領域(小) 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」
- ◇数学の領域(中) 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」

### 【全国学習状況調査(児童・生徒質問紙)】

- 質問数 小学校、中学校ともに85問
- 回答方法 4つから選択等
- 質問内容 小学校、中学校ともにほぼ同じ内容
  - 朝食 ○起床・就寝時刻 ○達成感、挑戦、長所、目標
  - テレビ・DVD、ゲーム時間 ○携帯・スマートフォンの使用時間
  - 学習時間、学習塾 ○読書時間・図書館の利用
  - 家庭でのコミュニケーション ○家族の学校行事への参加
  - 家庭学習(計画、宿題、予復習) ○学級のきまり、協力
  - 地域・社会への関心 ○新聞・ニュースの利用
  - 規範意識、人の気持ち、いじめ、人の役に立つ人間
  - 総合的な学習の時間 ○授業における発表の機会、話し合い活動
  - 授業の目標 ○振り返り活動 ○ノート、作文 ○国語の学習
  - 算数・数学の学習 ○問題の解答時間 等

### 【児童・生徒のデータについて】

- \*下野市 市内小中学校全校のデータ
- \*栃木県 公立小中学校全校のデータ
- \*全国 公立小中学校全校のデータ

## 平成28年度全国学力・学習状況調査(学力調査)結果

### 下野市と全国(公立)平均正答率との比較【H20～28全体比較】

※H23、24は抽出調査

◎大きく上回っている(5ポイント以上)

○上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

－同じ(±1ポイント未満)

▽下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

▼大きく下回っている(5ポイント以上)

小学校	H20	H21	H22	H25	H26	H27	H28	中学校	H20	H21	H22	H25	H26	H27	H28
国語A	○	○	○	○	▽	▽	－	国語A	○	○	○	○	○	○	○
国語B	○	○	－	○	○	－	○	国語B	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
算数A	○	－	○	○	－	－	－	数学A	◎	◎	◎	○	○	○	○
算数B	○	－	○	○	○	○	○	数学B	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

### 全国学力調査結果 下野市と全国(公立)平均正答率との比較【H28領域別比較】

◎大きく上回っている(5ポイント以上)

○上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

－同じ(±1ポイント未満)

▽下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

▼大きく下回っている(5ポイント以上)

小学校国語	国語A	国語B	中学校国語	国語A	国語B
話すこと・聞くこと	－	○	話すこと・聞くこと	○	／
書くこと	▽	－	書くこと	○	◎
読むこと	－	○	読むこと	○	◎
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	／	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	／

小学校算数	算数A	算数B	中学校数学	数学A	数学B
数と計算	－	○	数と式	○	○
量と測定	○	－	図形	○	◎
図形	－	－	関数	－	○
数量関係	－	○	資料の活用	－	○

## 1 小学校の全国学力調査結果について

国語のA問題は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国の平均正答率を1ポイント程度上回っていました。しかし、「書くこと」では全国の平均正答率を1ポイント、他の2領域は0～1ポイント近く下回っていました。15の設問中、10の設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも「平仮名で表記されたものをローマ字で書く」では、5～7ポイント上回りました。

国語のB問題は、「話すこと・聞くこと」が全国の平均正答率を2ポイント以上上回っていました。また他の2領域は全国の平均正答率を0～1ポイント程度上回りました。10の設問中、9の設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも「活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える」では7ポイント以上上回りました。

算数のA問題は、「量と測定」「図形」で全国の平均正答率を0～1ポイント程度上回っていました。「数と計算」「数量関係」では全国の平均正答率とほぼ同等でした。16の設問中、11の設問で全国の平均正答率を0～3ポイント上回りました。

算数のB問題は、「図形」が全国の平均正答率を0～1ポイント下回っていましたが、他の3領域は0～2ポイント程度全国の平均正答率を上回っていました。13の設問中、9の設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも、「示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる」では6ポイント以上上回っていました。

## 2 中学校の全国学力調査結果について

国語のA問題は、「書くこと」が全国の平均正答率を4ポイント以上上回っていました。他の3領域は2～3ポイント上回っていました。33の設問中、32の設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも「文章の構成や展開についての自分の考えを持つ」や「文脈に即して漢字を正しく書く」では、7ポイント以上上回っていました。

国語のB問題は、2領域とも全国の平均正答率を5～6ポイント以上上回っていました。9の設問中、すべての設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも、「文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く」では、8ポイント上回っていました。

数学のA問題では4領域とも全国の平均正答率を0～3ポイント上回っていました。36の設問中、26の設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも「空間における直線と直線との位置関係を理解している」では8ポイント上回っていました。

数学のB問題では、「数と式」「関数」で3ポイント以上上回っていました。「資料の活用」は4ポイント程度上回り、「図形」では、全国の平均正答率を7ポイント近く上回っていました。15の設問中、すべての設問で全国の平均正答率を上回りました。なかでも「付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる」では7ポイント以上上回っていました。

### 3 小・中学校の全国学習状況調査結果について

今年度の学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果は、「1. 当てはまる」「2. どちらかといえば、当てはまる」等の肯定的な選択肢から集計しました。

小学校では85項目中48項目で全国・県平均と同等または上回っていました。中学校では85項目中50項目で全国・県平均と同等または上回っていました。

小学校では特に、「朝食」「就寝時間」「将来の夢・目標」「平日のテレビ視聴時間」「平日のゲーム時間」「平日の携帯・スマホ利用時間」「平日の家庭学習時間」「休日の家庭学習時間」「学習塾での勉強」「宿題の実施」「家の手伝い」「新聞を読む」「学習を振り返る活動」「感想文や説明文を書く」「国語の勉強は好き」「算数問題への挑戦」等について、よい傾向が見られました。

中学校では特に、「朝食」「平日のテレビ視聴時間」「平日のゲーム時間」「平日の携帯・スマホ利用時間」「平日の家庭学習時間」「学習塾での勉強」「家族との会話」「授業の予習」「学級のきまり」「新聞を読む」「総合的な学習の時間が好き」「話し合う活動」「課題解決学習と発表」「目標の提示」「学習を振り返る活動」「感想文や説明文を書く」「自分の考えを深めたり、広げたりすること」「国語の勉強は好き」「国語の授業内容がわかる」「国語で資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする」「話の組み立て」「数学の勉強は大切」「数学は将来、社会で役立つ」等について、よい傾向が見られました。

今後、この結果を分析し、学校・家庭・地域における学習指導や生活指導の工夫改善等に生かし、児童・生徒のさらなる学力向上につなげていきたいと考えています。